

No. 75

2008年(平成20年)

7月1日

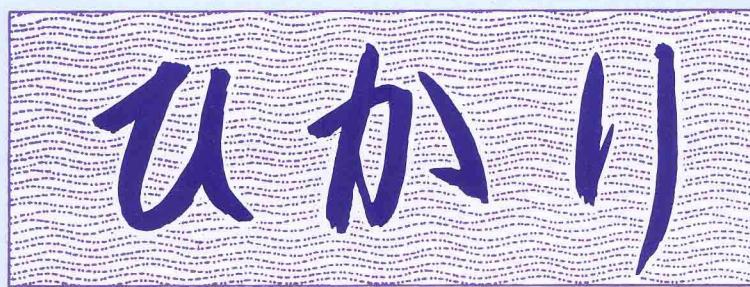
発行

浄土真宗本願寺派

和歌山教区日高組

責任者

鈴木悟峰



妙好人 浅原才市翁
ナムアミダブツ

罪の数ほど喜びもろて
慚愧歡喜のナムアミダブツ



善宗寺降誕会の風景

『眞実の世界のありか』

「その土に仏まします阿弥陀と号す。いま現にましまして法を説きたまふ」

「その土に」とあるのは、前の文をうけて極楽のことと指しています。続いて「仏まします」とあります。仏とは、自ら真理をさとり、他人をさとらせ、さとりのはたらきが窮まり満ちた、究極の覚つた者のことです。「阿弥陀と号す」とあるのが、極楽の仏さまの名であり、この阿弥陀さまが極楽のご主人なのです。この阿弥陀という名前のいわれは、後に又詳しく説かれますが、まずこれは極楽のご主人たる阿弥陀さまの名前をお示しになるのです。この阿弥陀さまは、決して死んだ人のことや、お寺に安置している仏像のことをいうのではありません。「いま現にましまして法を説きたまふ」とその阿弥陀さまのはたらきを一言で顯されます。この「今現に」とあるのが大切なお言葉であります。ぶつぶつ言う説教と違つて、孤独な私達に声をかけてくれるのです。孤独とは、一人でいる人だけではありませんよ。多くの人がいても、共に喜ぶ人のない人は孤独なのです。その孤独な私のためにお声をかけて下さっているのです。

阿弥陀さまは『大経』に説かれているように、法藏菩薩が五劫の思惟をされ、四十八願を誓い、永劫の修行の後、今より十劫前にお悟りになられたのです。だから十劫前に仏になられたという始めがあります。しかし、お悟りになつたのですから、永遠の寿命を得ておられます。

阿彌陀經に聞く

(永原)

花嫁衣裳の帶

報恩講に着物をアンサンブルに仕立て直してお参りしてくれた。姉妹がいまし

数日後、その家へ遅夜参りに行くと、縁側で和裁をしていました。「和裁がすきか」とたずねると、「古い着物を縫い直したり、毛糸のセーターを解い

「仏さんいつになつたら迎えに来てくれるんやろか。」
門徒さんの家でお勧めが終わり、その奥様から出した言葉です。その言葉を聞いた時、淋しくも彼女にとつて阿弥陀さまとは、遠い西の彼方、お淨土におられるよう、死ぬまで遇うことことができない、この命が尽きてから助けてくださる存在であるのだろうと感じられました。

私の今の問題と真向きになつてくださっています。十方の衆生と呼びかけ、阿弥陀さまは、どんなに遠ざかり、阿弥陀さまにはたらきは、煩惱の真つ只中に生きる阿弥陀さまのはたらきは、阿弥陀さまは、どんなに背いて生きてゆこうとするものも、救いのめあてであると述べられています。

門徒心得

「ただ今の救い」

私が凡ての姿であることを教示してください。それで、南無阿弥陀仏のみ名の声となつてはたらいてください。親鸞聖人は、さつています。南無阿弥陀仏の名号のいわれを薬をもつてたとえておられます。薬は病人の体に服用されではじめてその効能をあらわして、体内の血液と分けあって一体となり、分離することなく体内をめぐって病気を癒すように、阿弥陀さまも私の煩惱・苦腦の人生にとけて、その人生をささえておられるのです。今からでも決しておそくはありません。今を救つてくださる、阿弥陀さまなのですから。



られたので、二枚 目もお願いしま した。数日して 「糸が朽ちて修 繕できない。金 欝の袋帯があ るので、それを 打敷に仕立て直 したら駄目か。」 と姉妹で言つ て来たのです。

ると快く引き受けてくれました。早速本堂に来ててくれ打敷を外し持ち帰ってくれました。

「大事にしまつていった花嫁の筆笥の中で眠っているより、阿弥

「佛說無量壽經」
「佛說阿彌陀經」

新「教章」をご制定
浄土真宗の教章(私の歩む道)
宗名
宗祖
淨土真宗
親鸞聖人
開山
誕生
往生
一一二六三年一月十六日
(弘長二年十一月二十八日)
(承安三年四月一日)
一一二六三年五月二十一日
・
聖典
阿弥陀
如來(南無阿彌陀佛)
本尊
本山
淨土
宗派
龍谷
本願寺
真宗本願寺派
山
本願寺(西本願寺)

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如來のみ心を聞き、念佛を称えつゝつねにわが身をふりかえり慚愧と歡喜のうちに、現世御恩報謝の生活を送る。

日高組寺院めぐり

長覚寺(日高町比井)



第十六代住職
龜井真竜

沿革
寺誌には、真言宗
青苔寺住職教念、明応元
年(一四九二)蓮如上人
の教化を受け、永正十年
(一五一三)改宗し、今
の地に道場を建立、天文
七年(一五三八)本願寺
から阿弥陀如来絵像を下
付され、義天山長覚寺の
公称を許されたとある。

元禄二年(二六八九)
現在の本堂を建立し、同
十年(一六九七)に木仏
阿弥陀如来尊像が下付さ
れた。

宝暦十二年(一七六二)
に鐘楼、文化九年
(一八二二)に山門を建
立し、寺院としての体裁
が整つた。

元禄二年の本堂建立時
の記に「天下和順、日月
清明、国豐民安、兵戈無
用、崇徳興仁、務修礼讓」
とある。念仏を称え、み

教えに生きていくなれば、
記されているように豊か
な社会が生まれるのです。
当時の門徒方の篤い
信仰の程が偲ばれる一文
であります。

この血脉が受け継がれ、
平成五年(一九九三)か
ら平成六年(一九九四)
にかけて、本堂、鐘楼、
山門等の大修理を行い、
往時の伽藍が維持され
など、ご法義が相続され
ています。有難いことで
す。



真宗Q&A

「死後の世界、一般に靈
と言われているものにつ
ては、どう思いますか。

大谷

この世では、私た
ちは煩惱にまみれた生活
をしています。死後の世
界がこの世の延長にあるの
か、そうでないと考えるか
によつてその世界はさまざま
です。宗教によつて死後
をどうとらえるかは、それ
ぞれに異なつています。
淨土は限りない光の世界で
あり、そこに生まれた人は

も自分のいのちのゆくえを
問うことの方が先ではない
でしょう。

大谷光真ご門主ご著作
「世のなか安穏なれ」より

日高組通信

★行事報告

・日高組組会

三月二十九日(土)、日高
町上志賀、妙願寺に於いて、
各寺院の住職・門徒組

会議員さんの参加により、
平成十九年度定期組会
を各寺院の住職・門徒組、
会議員さんの参加により、
十九年度の事業並びに会
計報告、二十年度の事業
計画・予算について審議
しました。

開催日:八月三十一日(日)
組内の寺院訪問し、寺院
の特徴等を尋ね、総代と
しての自覚を深める研修
をする。

・日高組代会総会・研修会
四月十二日(土)、由良
町網代、念興寺に於いて、
十九年度の事業並びに会
計報告、二十年度の事業
計画・予算について審議
しました。

その後、「総代さんの役

★行事予定

・日高組子ども集い
(キッズ・サンガ)

開催日:八月一日(土)
場所:日高町小浦、円行
寺

さとりをひらいて、自由自
在の存在となるのですから、
たたりを起こす靈とはまつ
たく別の世界です。淨土に
生まれなければ、どこか迷
いの世界で仏縁に遇うこと
でしようが、それは阿弥陀
如来にまかせて、それより
も自分のいのちのゆくえを
問うことの方が先ではない
でしょう。

開催日:八月三十一日(日)
・日高組総代会前期研修会
組内の寺院訪問し、寺院
の特徴等を尋ね、総代と
しての自覚を深める研修
をする。

編集後記

今年も「暑い日々が続きます
ね」の言葉を交わす時期となりま
した。皆さまにはお変わり無く、日高
組の広報「ひかり」をご購読して
いただき有り難うございます。

八月になりますと各寺院ではお
盆のお勤め、ご先祖を偲んでの墓
参り、盆踊りの風景が多く見られ
るようになります。
お墓参りといえば、「先祖供養」
という言葉を思いうかべてしま
ります。淨土真宗の教えでは、先祖の供
養をすすめていません。なぜなら、
阿弥陀さまの願いに信頼し淨土に
往生させていただくことが決ま
っているからです。
ご先祖を偲び感謝することは、
仏さまへの報恩感謝をしていくこ
とにつながります。供養したり功
徳を積むことのできない私凡夫
のための教えを説くのが淨土真宗
なのです。

74号の法話の中で、「南無阿弥陀
佛」とするところが、「南無阿弥
陀佛」となつていました。訂正し
てお詫び致します。